

会報

熊本県日中協会

令和3年
11月発行

発行
熊本県日中協会
会長 小野 友道

事務局
〒860-0846
熊本市中央区城東町4-2
熊本ホテルキャッスル2F

Tel 096-356-4847
Fax 096-325-2829

通刊109号

～さらなる友好の絆を～

小野会長 協会創立50周年を前に

コロナ克服へ力結集 会員増で来年へ弾みを

新型コロナウイルス感染症第5波がようやくおさまる気配の中、10月29日熊本県日中協会の運営委員会を開催した。来年の行事などが協議されたが、コロナ禍は私たちの活動にも大きな打撃を及ぼしていた。恒例の留学生百人を招待してきた春節祝賀会もこのところできないでいる。総会に合わせて開く講演会も中止だった。熊本城マラソン大会に団体で参加して下さる予定の中

国の方々の来日も駄目になっ
てしまった。
加えて本協会新規入会者
がほとんどなく、それどころか会員の中にはコロナ禍で会費納入もままならない状況もあると事務局から知らされた。「会長、このままでは経済的にも不安です」と事務局長の報告に皆がため息を漏らす。

本協会は昭和47年9月の日中国交正常化を機に、熊本県日中友好交流懇談会として産声を上げた。地方の組織として全国で初めてであった。後に熊本県日中協会と名称を変更し、来年50周年を迎える。

この伝統ある協会としては、コロナで落ち込んではいられないのである。いや、こんな時こそ協会の活動が試される。そう思って発言したが、もちろん秘策があるわけではない。しかし、委員の皆様からも50周年に向かっての決意を述べて下さった。今、コロナで中国にも簡単にいけない。



小野友道会長
協会の運営委員会にて



熊本県日中協会創立40周年記念祝賀会

催し名に開
周年名に開
40周年に開
180名に開
盛大に開
した祝賀会
2012年11月18日
祝賀会に参加した
お祝いした

もお役に立てるといふ50周年のお祝いにしたい。その成功のために、私は会員増強の必要性をあらためて感じている。これを機会に会員の皆様には是非ぜひお力をお借りしたい。お一人が、新入会員お一人をお誘いいただきたい。そして50周年に向かって弾みをつけたいのである。50周年のお祝いの席では、みなさんマスクなしでこれまで通りにお話していただけることを願いながら筆をおく。



とも祝賀会を開催し、恒例行事となつて
留学生を初め恒例行事
（正月）を祝う恒例行事
中国（旧正月）の毎年
春節（旧正月）の毎年
の春節（旧正月）の毎年
勢の春会。協会創立50周年を
大に祝う。令和元年の第37回の様子

県内の大学などに留学する学生でつくる熊本地区中国学友会。県日中協会はこれまで、春節祝賀会（2月）などを通じて同会と交流を重ねてきましたが、一昨年冬から続くコロナ禍で、活動がすべてストップ。戸惑う留学生たちの今の様子を会長の杜君杰さん（25）に聞きました。

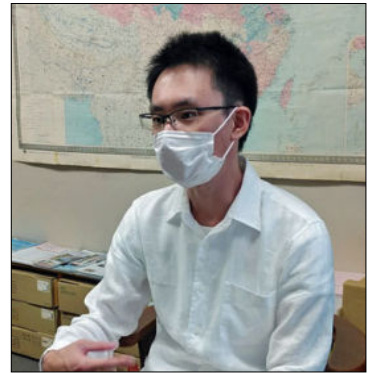
—熊本地区中国学友会の杜君杰さん— 会食やドライブで激励 ホームシックや生活苦も

「今、皆さんどういう状況ですか。」

「つい最近まで授業はオンラインで、対面はほとんどありませんでした。大半の学生は帰国せず、一人で頑張っています。アルバイト

「学友会は現在22人います。熊大、県立大、熊本学園大、崇城大に通う留学生です。とにかく公式に動けないので、授業が終わってから居酒屋へ行って中華料理を食べたり、少人数で近場へドライブに行ったりして激励しています。コロナ感染を心配して公共交通機関を使わないようにしてい

「生活に困っている人もいます。特に来日したばかりの人は『言葉の壁』『文化の違い』『友達ができない』からホームシックになった人もいます」
「学友会の現在の活動を教えてください。」
「学友会は現在22人います。熊大、県立大、熊本学園大、崇城大に通う留学生です。とにかく公式に動けないので、授業が終わってから居酒屋へ行って中華料理を食べたり、少人数で近場へドライブに行ったりして激励しています。コロナ感染を心配して公共交通機関を使わないようにしてい



協会事務局でインタビューに答える杜君杰さん



協会主催の春節祝賀会に参加した杜君杰さん（右から2人目）

「例年ならば、二の丸公園（熊本城）などでの花見に始まり、春秋2回の歓迎会（4、9月）、県内への小旅行（5月）、他団体との交流会（9月）と続きます。健軍商店街での国際イ

ベント（10月）では、学生たちがギョーザはじめ中華料理に腕を振るい、毎年多くの人が集まります」
「春節祝賀会は県日中協会が行う重要行事と位置付けてやっています。」
「2月の春節祝賀会には、毎年百人ほど招待してもらっています。正月らしく歌や踊り、会食やゲームを通じて交流を重ねてきました。ところが折からのコロナ禍で、これらすべての行事が昨年と今年は中止・規模縮小となりました」
「今後、協会へ望むことは何ですか。」



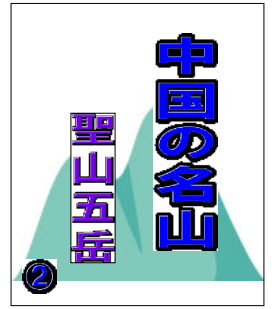
今年6月、学友会のメンバーで石神山公園（熊本市西区）でバーベキュー後、公園近くの駐車場で撮った集合写真

「日中両国の人が仲良く暮らすことはとても大事です。できるよになればいいです。もっともっといろいろなことを知る機会が欲しい。生かすね」



協会事務局の大きな中国地図の前で

ドウ クンジェ 1996年4月生まれ。大連市出身。父親の仕事で日本と縁があり、母親と二人で来日。現在熊大院（土木建築専攻）修士2年。来日9年目。地域風土や住民とのかわりを元にした『まちづくり』が専門。県内では上天草、山都、南阿蘇、荒尾、菊池などで活躍した。「熊本は食べ物おいしい。ギンナンの実が好物。辛子レンコンや馬刺しも好きです」。来春は東京の大手ゼネコンへ就職予定。



中国には神聖な場所として、人々に信仰されてきた霊山が数多くあります。その中から特に名高い聖山五岳と仏教の四大名山を紹介します。

仏教と道教が共存 衡山

湖南省の衡陽市にあり、七十二の峰がそびえ、総延長は四百^キに及び、主峰は祝融峰の二二九〇^ハ。ほか

衡山の南岳の頂上風景。立派な記念碑と建物が旅行者を迎える



に天柱、芙蓉、紫蓋、石廩の五峰は有名。衡山の特徴は、道教と仏教が同じ山、廟に共存していることです。また、衡山には巨木が背

シリーズでご紹介する「中国の名山」は次のとおりです
聖山五岳
 五台山（山西省）
 普陀山（杭州湾舟山群島）
 峨眉山（四川省）

- 高山（河南省）既載
- 恒山（山西省）既載
- 泰山（山東省）
- 華山（陝西省）
- 衡山（湖南省）

- 九華山（安徽省）
- 峨眉山（四川省）

高く伸び、山内には千二百余りの植物が生え、九か所の原始林があり、百五十以上の貴重な植物が分布しています。

絶壁の長空栈道 華山

陝西省東部、西安の二百^キ。高速鉄道で二時間余りの華山は、天下一の険しい山である。主峰の落雁峰は二一六〇^ハ。それに蓮花峰、朝陽峰からなり、石峰が林立する景観は夢幻の世

界を思わせる。千^ハ以上の落差がある岩壁がいたるところにあり、天然の絶景を堪能することが出来る。多くの観光客は二本のロープウェイで一気に入らぬままに登り、歩いて山上へたどり着く。

途中、直角に近い階段やはしごがあり、絶壁には幅二十数^ハの板を渡した百^ハ弱の「長空栈道」（有料）など、スリルに富んだ山は、主に道教の修行場。



最も険しい山と言われ、西峰の頂上に向かう道は岩山の稜線。手すりはあるもののドキドキする道の連続です



「我登上了泰山」「私は泰山に登りました」と山上に建てられた記念の文字書き

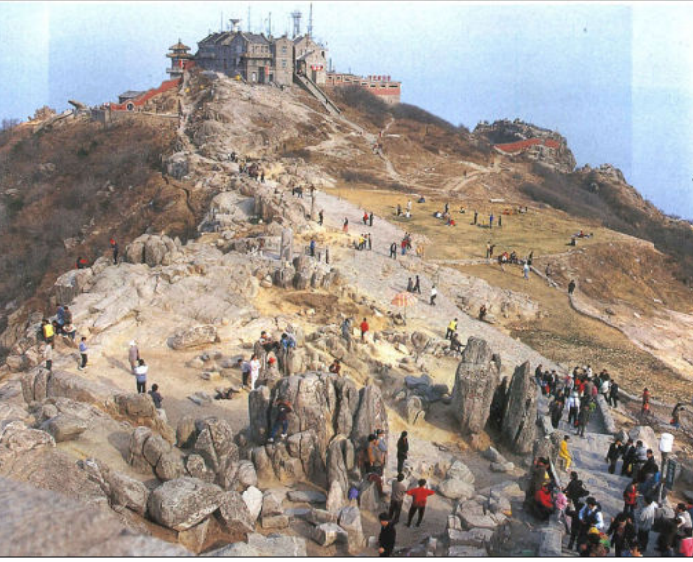
歴代皇帝が封禪の儀 泰山

山東省、孔子の生誕地で知られる曲阜から北へ八十^キ。「動かざること泰山の如し」で日本人にも知られ

た泰山。秦の始皇帝など歴代の皇帝が天の神を祀る封禪の儀を行った中国第一の聖山。主峰は一五^ハ。余りと低い

が、周囲の華北平野から山塊がせり上がり、あたりを払う風格も。山頂には老子の母とされる碧霞元君を祀る祠堂・碧霞祀があつて、今も道教の霊山として参拝者が絶えない。麓から頂上まで九^ハ、六千三百段の石段を人の列が続き、頂上の玉皇頂から見る日の出は素晴らしい。途中からロープウェイができ、十分弱で登れるようになった。

泰山登山は麓の岱廟参拝がセットで祈願し、登頂する。泰山は1987年に世界遺産に登録された。



泰山の山頂付近を頂上目ざす人たち。途中思い思いに写真撮影も

中対協

相談活動や交流展開

戦後76年・県内に帰国者千人

日中協会

先の大戦後、中国東北の旧満州地区（遼寧省、吉林省、黒竜江省）には、日本に帰る機会を失い中国人の妻となった女性や、孤児となり中国の養父母に育てられた子ども達がたくさん住んでいました。

この方達は、入国の際の旅費を国が支給したため、「国費帰国者」とも呼ばれ、

1972（昭和47）年の日中国交正常化以降、徐々

旅費を国が支給したため、「国費帰国者」とも呼ばれ、



終戦当時、旧満州地区には開拓団などで155万人もの日本人が住んでいました

狭義での中国帰国者です。

しかし、この他にも残留邦人が帰国時に同伴できなかった他の子ども世帯など、いわゆる「呼び寄せ家族」も相当数が日本に在住しており、この方たちは「自費帰国者」と呼ばれます。

一般的にはこれら自費帰国者も含めて「中国帰国者」と呼んでいますが、公的な支援は国費帰国者に限られているのが現状です。

熊本県中国残留孤児等対策協議会（中対協）は国の支援の届かない自費帰国者へも支援の輪を広げようと昭和58年2月に設立された団体で、中国帰国者の自立促進のため、日本語指導や生活指導、就労支援、通訳の派遣などを主な事業としてきました。

熊本県には千人近くの帰国者が在住していると思われ、日本語を勉強したり、努力して商売を始めた

熊本県日中協会は中対協から業務委託を受けており、これらの活動を通じて中国帰国者を支援しています。



布製のブローチづくりをしながらおしゃべり、お茶を飲みながら、自然に交流できる「和会」の活動。楽しく学びたいという声から、日本語や日本文化の紹介も行う予定です。

り、しっかりと自立できている方も多くいますが、

うケースもあります。

来日時の年齢やその他の理由により、なかなか日本語が習得できなかったり、うまく日本の生活になじめないという方もあり、そのような方が高年齢化してますます困難が増えてきています。病院への通院が増えたり、仕事を退職したため引きこもりがちになったり、言葉が通じないことや食生活・生活習慣の違いから介護サービスの利用をためら

方々が医療機関などを利用する際の同行通訳の派遣や様々な相談活動、高齢帰国者向け日本語交流サロン「和会」の開催なども行っています。

きこもりがちになったり、言葉が通じないことや食生活・生活習慣の違いから介護サービスの利用をためら

戦後76年がたち、「中国残留孤児」という言葉を聞いたことがないという若い方も増えました。周囲からの誤解や偏見をなくし、地域社会からの孤立を防ぐためにも、皆様方の中国帰国者へのご理解のほど、お願いいたします。

編集後記

今号は、いわゆる「ネタ（材料）」がなく大変苦労しました。コロナ禍の影響で会議をはじめイベントや企画ものが開催できていないためです。事務局長の青木さんに無理難題を押しつけ、お忙しい小野会長にも一筆書いていただき、ようやく10月号が完成しました。来年11月は協会が創立50年の節目を迎えます。半世紀前、巷では中国ブームが起きていました。当時、私が住んでいた入吉市でも、文化センターという会場で「大中国展」が大々的に開かれたことを思い出しました。「中国」を通じて、初めて異国の情緒や文化を体感しました。お香のような独特な匂いが立ち込める中、広い会場にはお茶やお菓子、美術品・工芸品、日用品、書籍や文具が所狭しと並び、「大きな隣国」に思いをはせたものでした。コロナ禍が少しずつ収まってきたようです。1年後、盛大に記念イベントができればいいなと心から思います。（機関紙編集委員 木村圭一郎）